

Press Release

For immediate release – 2006年6月13日

アムールヒョウやロシア沿海地方の生物多様性を守ってください！

シベリアー太平洋石油パイプラインターミナル建設地の変更を求め、

日本のNGO3団体がプーチンロシア大統領に要望書を提出

ー日本からの署名に協力をー

FoE Japan、野性生物保全論研究会（JWCS）およびWWFジャパン（世界自然保護基金ジャパン）の3団体は本日、ロシアで建設計画が進められている、総延長約4,200キロメートルの「シベリアー太平洋石油パイプライン」の最終部分である50kmの敷設ルートおよび石油積み出しターミナル建設地の変更を求める共同要望書（添付資料1）をプーチンロシア大統領へ送付し、更に、これに賛同する日本の一般市民からの署名受け付けを開始した。

ターミナル建設は本年中の開始が予想され、候補地として、沿海地方のペレボズナヤ湾が提案されている。実現すれば、推定生息数わずか30頭、IUCN（国際自然保護連合）による分類で絶滅寸前種に記載されているアムールヒョウその他の絶滅危惧種の生存が危ぶまれる上、ユネスコの生物圏保存地域でもありロシア最古の、「ケドロバヤ・パジ国立自然保護区」、同じくユネスコ生物圏保存地域で同国唯一の海洋保護区である「ロシア極東海洋保護区」などへの悪影響も懸念されるため、3団体は環境影響が少なく、経済的にもより有利な候補地への変更を求めている。

同パイプラインは、シベリアのタイシュトからロシア沿海地方のターミナルまで総延長約4,200キロメートル、推定投資額は総額115億～150億米ドルに上るロシア史上最大の開発事業で、日本、中国、韓国、米国等への石油輸出を予定している。完成の暁には、年間1,000万～5,000万トンの石油が沿海地方まで輸送され、これにより日本は現在中近東諸国より輸入している石油量の最大約20%を確保できることになり、日本のエネルギー戦略上も重要な計画である。

しかし、沿海地方ペレボズナヤ湾にターミナルを建設した場合、このパイプラインの最終部分の50kmは、「バルソヴィ鳥獣保護区」を横切ってケドロバヤ・パジ自然保護区の境界線上を通り、ペレボズナヤ湾に抜けるルートで敷設される。バルソヴィやケドロバヤ・パジとその周辺の森林には、アムールヒョウをはじめとし、ロシアで現在絶滅の危惧されている陸棲生物種の31%が生息しており、その約半分はこの地域にしか生息しないが、ターミナルとパイプラインの建設や管理等のために何千人もの労働者が移住し、違法伐採、密猟や破壊的な森林火災等が増大し、これら生物の生存を脅かすことが懸念される。

一方の海洋保護区は390種の鳥類（うち28種はIUCNレッドリストとロシアのレッドブックの記載種）や170種の魚類、300種（うち7種はロシアのレッドブック記載種）の貝類の生息地だが、WWFロシアを初めとする環境NGOや学識経験者の実施した環境影響評価は、ペレボズナヤ湾でのターミナルは、他の候補地と比較して石油流出事故の起こる可能性が17倍も大きいと結論付けており、海洋保護区への影響も計り知れない。さらに、石油流出事故が起こった場合の石油回収や浄化の費用も高額に上るとされ、地元の水産・観光業への経済的損害も懸念される。

ロシア政府高官や地元住民、IUCN、ユネスコ、ロシア内外の環境保護団体等や世界的にも有名なロシア科学アカデミーのスタッフを含む専門家は、ペレボズナヤ湾でのターミナル建設とパイプライン最終部分

の敷設ルートの環境影響に対する懸念を繰り返し表明、代替地への変更を求めてきた（添付資料2）。これまでに明らかになった環境影響を鑑みれば、この開発事業は、国際協力銀行（JBIC）ⁱの「環境社会配慮確認のための国際協力銀行ガイドライン」、世界40行以上の参加する民間銀行の基準「エクエーター原則」ⁱⁱなど、開発事業への投資に際し考慮すべき環境基準にはまったく適合しないと考えられる。

2005年11月4日、WWFロシアのディレクター、イゴール・チェスティンとのミーティングでプーチン大統領は、シベリアー太平洋石油パイプラインの重要性を強調したが、ターミナルの代替地を選ぶことには反対しない、何よりもそうした決定は専門家が下すべきであると述べた。ゲルマン・グレフ経済発展貿易相、ユーリー・トゥルトネフ天然資源相とイゴール・レヴィチン運輸相は2005年9月18日、ターミナルを開発から逃れてきたペレボズナヤ湾から、ナホトカ港の近くを含む既存の施設を持つ代替地へ変更する可能性について共同発言しており、2006年2月1日には、ロシア連邦環境・技術・原子力監督庁（ロステフナドゾール/Rostekhnadzor）ⁱⁱⁱのコンスタンチン・プリコフスキー長官が、ペレボズナヤ湾でのターミナル建設に関する連邦環境影響評価専門委員会の反対決議を支持している。

同パイプラインは、開始地点近くのルート敷設において、世界最大にして最深の淡水湖、ユネスコ世界自然遺産でもあるバイカル湖から800メートルの地点を通過するよう計画されていたため、バイカル湖への影響が大変懸念されていた。しかし、今年4月のプーチンロシア大統領の賢明な判断によってルートが変更され、バイカル湖を400キロ迂回することが決定した。

3団体は同大統領に対し、アムールヒョウやその他の絶滅危惧種のすみかである、ケドロバヤ・パジ自然保護区や極東海洋保護区の生態系を守るため、ターミナルをペレボズナヤ以外の候補地に建設するよういま一度の英断を求め、本日書簡を送付した。また、ロシアからエネルギーの供給を受ける日本人ひとりひとりが、これを自らの問題と認識し、行動を起こすことを強く期待し、3団体それぞれの公式ウェブサイト上で、共同要望書に賛同する日本市民からの署名の呼びかけを開始した。

添付資料1：プーチンロシア大統領宛3団体共同の要望書

添付資料2：シベリアー太平洋石油パイプライン敷設ルートとターミナル建設を巡る、これまでのロシア国内外の動き

参考資料：グリーンピース、WWFロシア等による報告書「シベリアー太平洋石油パイプライン - 沿海州南部の石油ターミナルの経済的・環境的影響とリスク」（2005年10月発表、JWC S翻訳グループ和訳）<http://www.jwcs.org/pdf/pipeline%20GPreport.pdf>からPDF文書としてダウンロード可能

本プレスリリースに関する問い合わせ先は以下

● 国際環境NGOエフ・オー・イー・ジャパン（FoE Japan） 野口 栄一郎（ロシアタイガプログラム）

〒171-0031 東京都豊島区目白3丁目17番24号 総合設計機構ビル2階

TEL: 03-3951-1081、FAX: 03-3951-1084、電子メールアドレス: taiga@foejapan.org、ウェブサイト: www.foejapan.org

● 野生生物保全論研究会（JWCS） 戸川久美（事務局次長）

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目5番4号 末広ビル5階

TEL/FAX 03-3595-1171、電子メールアドレス: kumitogawa@jwcs.org、ウェブサイト: www.jwcs.org

● WWFジャパン（世界自然保護基金ジャパン） 柴田 美子（森林プログラム）

〒105-0014 東京都港区芝3丁目1番14号 日本生命赤羽橋ビル6階

TEL: 03-3769-1713、FAX: 03-3769-1717、電子メールアドレス: shibata@wwf.or.jp、ウェブサイト: www.wwf.or.jp

ⁱ JBICの詳細情報: www.jbic.go.jp/japanese/environ/guide/index.php（日本語）

ⁱⁱ 「エクエーター原則」の詳細情報 www.equator-principles.com/（英語）。日本の銀行では、みずほコーポレート銀行、東京三菱UFJ銀行、三井住友銀行が参加している

ⁱⁱⁱ ロシアの環境監視機関